

サクソ奏者 本田雅人が聴く 吹き手のニュアンスを すべて再現するヘッドホン JVC SOLIDEGE

JVCのハイクラスヘッドホンシリーズ「CLASS-S」の新ラインアップ「SOLIDEGE (ソリデージ)」が、発売以降各方面で高い評価を受けている。フルステンレスボディを採用した最新モデルを、今回スーパーサクソプレイヤー本田雅人氏が試聴。本田氏はTHE SAX vol.81で、同じ「CLASS-S」シリーズの木の振動板を採用した美しい響きが特徴の製品「WOOD 01 inner」を試し、その後もリスニング用として愛用しているという。異なるコンセプトの両製品を聴き比べながら、「SOLIDEGE 01 inner (HA-FD01)」の実力に迫る。



SOLIDEGE 01 inner (HA-FD01)

フルステンレスボディにより、伸びのある高域と輪郭のある低域を実現。さらに新開発のD3ドライバーユニットを搭載し、ソリッドでタイトな高品位サウンドを聴かせる。



製品詳細はこちら→



昔の音源でも、圧倒的臨場感 で現代的に聴かせる

— サクソの音の聴こえ方はどうでしょうか。

本田 「Waltz For Debby」のような古い音源でも、つばの音まで聴こえるんですよ。タンギングやアーティキュレーションのニュアンスがここまで具体的に聴き取れるのかと驚かされます。サクソの一番上の「サツ」という部分や「タツ」という音の再現力でしょね。集中して聴くとその臨場感に圧倒されます。

作り手側は普段そこまでの領域を意識してレコーディングしていないと思うので、自分も今後は気を付けよう、と(笑)。

昔は聴こえることなかった部分が聴こえているというのは、再生機器側の進化を実感しますね。言い換えると、昔の音源も現代的に聴かせてしまう魅力があるということです。これらの曲に関して何度も聴いてイメージができていたつもりが、まだ新たな発見がある。聴き返す楽しみができますよ。

— さっそく SOLIDEGE 01 inner (HA-FD01) と WOOD 01 inner (HA-FW01) を聴き比べた第一印象を教えてください。

本田 随分傾向が違いますね。特に印象的だったのは、高音の鳴らし方と低音の質感の違いです。SOLIDEGE は WOOD と比べるとかなりスッキリとした印象のサウンドです。そのため低音の量感的には WOOD よりも少なめに感じますが、その分高音の美しさが際立ちます。高音が綺麗に伸びますが、キンキンとうるさくないのが良いですね。聴いていて疲れることはないでしょう。Lowの成分を過剰に感じないという点では、ステージでの使用にも適しているかもしれません。

— 音のバランスは高域寄りということでしょうか？

本田 Lowが少なく感じるとは言いましたが、それは低域の出方がとてもシャープでスッキリしているからそう感じるものであって、決して出ていないわけではありません。音の輪郭がはっきりしていて、それこそ昔のLPのように音程のセパレーションもしっかりしている。小さな音量だとそのへんがわかりづらかもしれませんが、ボリュームを上げていくと、低音の迫力と余韻を十分に感じることができます。

ここでは単純にLowとかHighという言葉で語っていますが、例えばドラムのキック音やベースの音って、Lowだけ出ていてもダメで、Highが良くないとバシッと決まらない。それぞれの楽器に理想的なバランスというものがあって、それらが合わさって音楽が出来上がっています。すべてを理想的に再現するのは難しいことだと思いますが、このような全体を素晴らしい音で鳴らしてくれる製品に出会うと楽しくなりますね。

また、SOLIDEGEは音の広がり方も優れています。イヤホンとは思えないリッチな空間を感じます。

ありのままの音楽を 聴くために

— 2つの「CLASS-S」を聴き比べて、いかがでしたか？

本田 昔、LPなどを聴いていた時代というのは、現代ほど音楽にLowがなかったんですね。ラジカセが大型化してきて、Lowをブーストする音楽の聴き方が流行り、今やスマホでEQを自在にいじれる時代になりました。そんな中でJVCの「CLASS-S」製品は、昔の聴き方というか、ナチュラルなサウンドを提示したいのだからなと感じます。音楽をナチュラルに楽しく聴かせるという意味で、JVCのヘッドホンはリスニング用として素晴らしいクオリティを持っています。

SOLIDEGEもWOODも、聴き比べるとまったく音の鳴らし方が違うことは誰でもすぐわかると思います。どちらのほうが優れているとかではなく、その人の好みや用途によって選ぶべきものでしょう。

際立つ高域の美しさと、はっきりした輪郭の低域

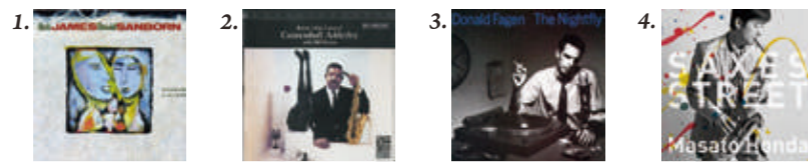
— 本田さんには、以前WOOD 01 inner (HA-FW01) も試していただきました。

本田 WOODはリスニング用としてとても素晴らしいモデルでした。今回の新モデルは材質や音のコンセプトが違うとのことなので、ぜひ聴き比べてみたいと思い普段使っているものを持ってきました。

楽器奏者なので、特にマウスピースからくる材質による音のイメージを持っています。マウスピースは、木の素材があれば金属でステンレスを採用したものもあります。数ある金属素材の中でも、ステンレスが一番冷たい音を鳴らすイメージ。それがヘッドホンになったときにどうなるのか、非常に楽しみです。



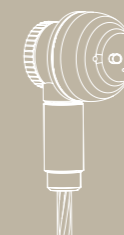
本田氏が試聴した曲



1. Maputo / 『Double Vision』 Bob James & David Sanborn
2. Waltz For Debby / 『Know What I Mean』 Cannonball Adderley & Bill Evans
3. I.G.Y. / 『The Nightfly』 Donald Fagen
4. Seven / 『SAXES STREET』 本田雅人

ノズル交換で自分好みの音を

素材が違う種類のノズルを用意。ノズルを交換することで、好みの音色にカスタマイズすることが可能。本田氏のお気に入りには「プラス」素材。



3-Type Nozzles

